



編集後記

WINDOWS（金城学院大学点検・評価報告書）第4号にあたる本号は、大学基準協会の2007年度大学評価を受けるべく2007年3月に提出した本学の報告書と、2008年3月に「適合」との評価をいただいた大学基準協会の評価結果で構成されている。

まず、大学評価申請にいたる経緯を記そう。本学は、1994年に自己評価委員会を発足させ、本学独自の方法で自己点検・評価を行ってきた。本学が自己評価の報告を、WINDOWS第1号として初めて社会に公表したのは1999年度のことである。その後、学校教育法の改正により大学認証評価が義務づけられることになり、それに対応すべく、本学は大学基準協会に2003年度の相互評価を申請した。そのときの報告書と「適合」との審査結果は、WINDOWS第3号として公表した。この評価結果の有効期間は7年間であるから、2010年度まで有効である。にもかかわらず3年の前倒しをして、大学基準協会に2007年度評価をお願いしたのは理由がある。一つは、前回の審査が大学認証評価を大学に義務づける学校教育法改正の施行以前であったことで、法的に問題はないものの法改正の趣旨にもとづき少しでも早く大学認証評価を受け直しておこうということであった。いま一つは、本学の金城学院大学自己点検・評価実施細則が「7年間に2回（3年又は4年に1回）」の自己点検・評価の実施を義務づけており、せっかく自己点検・評価を実施するのならば大学基準協会の大学評価を受けるに越したことはない判断したことにある。しかし、より本質的な理由は、2009年に本学が学院創立120周年・大学設立60周年を迎えるにあたり、10年・20年先の本学の将来を見越した大学のグランドデザインの作成を自らの課題として意識し始めていたことにある。

これは報告書を提出した後のことになるが、2007年4月の全学懇話会において学長室は『「将来構想」に旺盛な議論を』を報告し、将来構想に関する議論を全教職員に呼びかけた。11月には総合戦略協議会を設置し、さらに3つの作業部会を発足させ、グランドデザインと中期目標の検討を続けている。将来構想検討の出発点には、大学の現状の正確な点検・評価がなければならない。その意味で、今回の大学評価は本学にとってまことに時宜にかなったものとなった。さいわい「適合」との評価をいただくことができたが、ご指摘いただいた「助言」にもとづき改善に努めるとともに、「長所として特記すべき事項」は引き続き本学の特長としてさらに伸ばして行くことに一層の努力をお約束したい。

自己評価委員会で大学基準協会に大学評価を申請することを決めたのは、2006年5月のことであった。以来、教員履歴・業績作成、大学基礎データ作成、執筆者打ち合わせ、草稿の作成で2006年は終わった。2007年に入り、大学評価の申し込み、草稿の検討と調整を経て、大学基準協会にご指導をいただいた後の3月下旬、大学評価申請資料一式（報告書・基礎データ・添付資料）を大学基準協会に提出した。大学基準協会の実地視察が10月15日、確定した評価結果の通知を受けたのが3月11日であった。

この2年間、関係する教員諸氏には教育・研究・公務と多忙の中で、事務職員諸氏には忙しい日常業務の中で、報告書の作成等にご尽力いただいた。お世話になったすべての教職員諸氏に、心より感謝したい。その中でも、叱咤激励しつつ的確な示唆を与え続けてこられた学長補佐の伊藤達也氏と企画広報部の原崎周平氏のお名前をとくに挙げて感謝することに誰からの異存もないだろう。お二人の働きにあらためて感謝を申し上げる。

副学長 二 杉 孝 司

WINDOWS vol.4 金城学院大学点検・評価報告書 2007
—大学基準協会大学評価結果報告書—

2008年5月31日 発行

編 集 金城学院大学自己評価委員会
金城学院大学総務部

発 行 金城学院大学
〒463-8521 名古屋市守山区大森2-1723
☎(052) 798-0180 (代表)
<http://www.kinjo-u.ac.jp/>

印 刷 (株) カ ミ ヤ マ

※本書の無断複写・複製・転載を禁じます。